

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地			
穴吹医療福祉専門学校	平成18年12月26日	福島 圭吾	〒720-0052 広島県福山市東町市2丁目3番6号 (電話) 084-931-3325			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人穴吹学園	昭和25年12月16日	穴吹 薫	〒720-0052 広島県福山市東町市2丁目3番6号 (電話) 084-931-3325			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	こども福祉教育学科	平成29年2月28日 文部科学省告示第三〇号	—		
学科の目的	近畿大学九州短期大学併修による、保育士資格・幼稚園教諭2種免許・社会福祉主事任用資格を取得し、さらにパソコン技術・ビジネス実務・コミュニケーション能力など幅広い知識を持った人材を育成することを目的としている。					
認定年月日	平成26年3月31日					
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技
3	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数 2400	720	1227	432	0	21
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90	49	0	7	12	19	
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 年2回の期末に科目毎に評価し、 年度末に通年の評価を行う		
長期休み	■学年始め: 4月1日 ■夏季: 8月4日～9月25日 ■冬季: 12月22日～1月9日 ■学年末: 2月27日～31日		卒業・進級 条件	年2回の期末に科目毎に評価し、 年度末に通年の評価を行う		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ■長期欠席者への指導等の対応 担任から電話連絡、文書送付		課外活動	■課外活動の種類 学園祭での実行委員会、学校説明会での来校者の応対、 案内、学校生活の紹介、説明等、クラブ活動 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 保育園等 保育士、社会福祉法人等 生活支援員		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	資格・検定名		
	■就職指導内容 就職部の専任担当者を中心に、クラス担任とも連携して指導する。入学直後のオリエンテーション、就職希望調査、履歴書等作成指導、就職活動研修及び個人がイグノスの実施 ■卒業生数 19 人 ■就職希望者数 19 人 ■就職者数 19 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)			種	受験者数	合格者数
中途退学 の現状	■中途退学者 3 名 ■中途退学率 6.1 % ■中途退学の原因 進路変更、家庭の事情 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・担任のカウンセリングスキルアップのための研修を毎年実施 ・外部のスクールカウンセラーと連携し、支援を仰ぐ ・発達障害等の問題学生への対応の仕方を定期的に研修 ・ハイパーQ診断により、学生のモチベーションの変化や不満・不安を抱える学生を早期把握し対応					
経済的支援 制度	経済的理由でいずれかに該当する修学困難な世帯の学生より、審査を行い、そのうち学校で1名について授業料を20万円減免する。 生活保護費受給、個人住民税所得割が非課税、所得税が非課税、保護者等の倒産、失業などによる家計の急変の対象者に支援する。					
第三者による 学校評価	現在はありません。					
当該学科の ホームページ URL	URL: http://www.anabuki-net.ne.jp/fukuyama/amf/					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

常に業界の最新の技術動向に対応できるスキルを習得できるよう、企業等の意見、情報収集を定期的に行い、教材、授業方法等について工夫・改善を実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校長を教育課程編成委員長として、他の委員にて協議した結果の最終判断者とする。副校長は教育課程編成委員会の副委員長として委員長を補佐する。その他の委員は、自由な立場で学科、学校の教育活動に対する提言、意見を述べる事ができる。教育課程編成委員会でもとめられた答申は、教務部への提言、検討を経て、設備投資や新規採用が伴う案件は理事会で諮られ、審議され、採決されたものは改善活動へとつながる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
難波 史朗	社会福祉法人 福美会 つなぎ保育園 副園長	平成29年11月28日～平成30年11月27日 (1年)	③
石原 正規	メディキャスト株式会社 マネージャー	平成29年10月1日～平成30年9月30日 (1年)	③
鈴鹿 和彦	岡山県産業労働部経営支援課 総括副参事	平成29年10月1日～平成30年9月30日 (1年)	①
福島 圭吾	穴吹医療福祉専門学校 校長	平成29年10月1日～平成30年9月30日 (1年)	
信岡 誠三	穴吹医療福祉専門学校 副校長	平成29年10月1日～平成30年9月30日 (1年)	
采元 健二	穴吹医療福祉専門学校 教務部長	平成29年10月1日～平成30年9月30日 (1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 11月、3月

(開催日時(実績))

第1回 平成30年11月12日 16:30～17:30

第2回 平成31年3月18日 16:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

- ・ボランティアで実践力を育成する
 - 1年次のボランティア実習を引き続き行う(保育園1回、幼稚園1回)
 - 2・3年次の実習前ボランティアを実施
- ・自主的なボランティアを促す
- ・保育園見学会に参加を促す
- ・文章力を付けるため文章読解作成能力検定の導入、日本漢字能力検定

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等から講師派遣や専門科目における教授内容や授業方法について助言、指導を受け、より実践的、専門的な内容を提供する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

保育園、幼稚園、施設

観察実習、参加実習、責任実習(部分実習・全日実習)の形態で各2週間、施設は10日間の実習を実施

実習中は実習日誌及び責任実習については指導案を提出、実習態度、保育技術、保育の立案や記録などで

実習先が評価を出す。提出された評価を基に学校が総合的に成績をつける。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
保育実習Ⅰ	保育園にて実習を行い、幼児教育に関わる理論と実践を体験的に統合していく。児童福祉施設にて実習を行い、養護を実践する。	社会福祉法人千草会 てまりこども園、社会福祉法人広徳会 宜山ひかり保育園等
保育実習Ⅱ	保育園にて、現場ならではの教育・養護技術を学び、保育士としての意欲を高める。	社会福祉法人白雲福祉会 みどりこども園、社会福祉法人鏡福祉会 あおば保育園等
保育実習Ⅲ	保育園以外の児童福祉施設にて、現場ならではの教育・養護技術を学び、保育士としての意欲を高める。児童福祉施設にて、現場ならではの養護技術を学び、保育士としての意欲を高める。	社会福祉法人三原のぞみの会 こども発達支援センターのぞみ等
教育実習	幼稚園にて、現場ならではの教育技術を学び、幼稚園教諭としての意欲を高める。	学校法人光耀学園 かやのみ幼稚園、学校法人三光学園 神辺千鶴幼稚園等
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教職員研修規程にて定められている、指導力アップのための研修と専門的・技術的なスキルを修得する研修をそれぞれの現状の修得状況に合わせ、年度当初に立てる研修計画に基づき予算化し、組織的、計画的に遂行していく。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
② 指導力の修得・向上のための研修等 マーケティング基礎理論(平成30年3月1日) 穴吹教育総合研究所主催。「オープンキャンパスのガイダンス実施方法」について学ぶ。講師: 福田部長 キャリア指導の基礎研修会(平成30年3月16日) 穴吹教育総合研究所主催。「キャリア指導の基礎」について学ぶ。講師: 福田部長 合理的配慮が学校を変える(平成31年1月7日) 「コミュニケーションの苦手な学生指導方法」について学ぶ。講師: 竹内 吉和		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等 ・授業内容を就職先の業務内容に連続させるため、また、教員の知見を広めるための講演等に年間を通じて専門科目担当教員を参加させる。 ・提携校近畿大学九州短期大学が毎年実施する研修会に参加する。		
② 指導力の修得・向上のための研修等 ・連携先の全国専門学校教育研究会および、穴吹教育総合研究所が企画する研修を中心に、次にあげるテーマを優先して参加させる。「退学防止とクラス運営」「学生モチベーションとセルフコーチング」「アクティブラーニング」「キャリアサポート」。対象はクラス担任、学科担当教員。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

- ①関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける
- ②自己点検評価の適正化、妥当性を客観的に評価する
- ③結果として、職業に必要な実践的且つ、専門的な能力がより習得できる改善計画を立案し、PDCAサイクルを回し続ける

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	学生等に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか 教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか 学外に対し教育理念等を明文化し、公表しているか 各就業期間における教育目的、教育目標が文書化され、教育計画が文書化され提示されているか
(2)学校運営	理事会が定期的に開催されているか 評議員会が定期的に開催されているか 運営会議が定期的に開催されているか 人事規程が文書化されているか 決裁規程が文書化されているか 個人情報保護規程が文書化されているか
(3)教育活動	学校の年間スケジュールはあるか シラバスあるいは講義要項等が作成されているか 学生によるアンケート等による授業評価が定期的に行われているか 結果にもとづく教員面接を実施しているか 結果にもとづく授業観察を実施しているか 結果にもとづく教員のレポート、改善計画書等が作成されているか 授業改善のための組織的取り組みが行われているか キャリア教育などが行われているか
(4)学修成果	学生の就職に対する目標を設定したか 資格・検定・コンペに関する目標を設定したか 退学率の目標を設定しているか 卒業生の進路、就職先等を公表しているか
(5)学生支援	進路、就職に関する支援体制は整備されているか 学生相談に関する支援体制は整備されているか 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 課外活動に対する支援体制は整備されているか 卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	学校生活におけるリスクマネジメントとして保険に加入しているか 防災・防犯設備が整備、点検されているか 施設、設備の保守・点検が定期的に行われているか
(7)学生の受入れ募集	学校案内等には育成人材像が明示されているか 学校案内等には目指す資格・検定・コンペが明示されているか 学校案内等には学費・教材費等が明示されているか 入学に関する問い合わせ等には適切に対応できる体制ができているか
(8)財務	年度予算、中期計画は策定されているか 予算は計画に従って妥当に執行されているか。定期的に確認されているか 会計監査体制のルールが明確化されているか 会計監査の結果報告が文書等で明確化されているか
(9)法令等の遵守	自己点検・評価を適正に実施運用するためのルールが文書化されているか 自己点検・評価報告書があるか 自己点検・評価報告書が公表されているか
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- ・自己点検評価の項目を細分化し、昨年度までの形式を改めた。
 - ・クラス通信の発行を各クラスとも年2回以上送付し、家庭への情報発信をUPLした。
- 保育園等における職場実習状況については、保護者、学生、学校間での状況把握を円滑に行えるようにした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
難波 史朗	社会福祉法人 福美会 つなぎ保育園 副園長	平成29年11月28日～平成30年11月27日(1年)	企業等委員
小栗須千雅	医療法人おぐるすハートクリニック内科循環器呼吸器科 院長	平成29年10月1日～平成30年9月30日(1年)	企業等委員
金山 節津	医療事務経験者 マナーインストラクター	平成29年10月1日～平成30年9月30日(1年)	企業等委員
大住 果泉	株式会社パソナ岡山	平成29年10月1日～平成30年9月30日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページにて公表

URL:<http://www.anabuki-net.ne.jp/fukuyama/info/index.php>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・教育に関わる情報について原則、公開する
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供できるよう努める
- ・情報の提供に際してはインターネットでの提供を基本とする
- ・統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する
- ・個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史 学校の教育、人材養成の目標及び教育指導計画 経営方針
(2)各学科等の教育	入学に関する受け入れの方針及び入学者数、収容定員、在学学生数、カリキュラム、時間割、年間の授業計画 進級・卒業の要件 資格取得、検定試験合格等の実績 卒業者数、卒業後の進路
(3)教職員	教職員数 教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況 実習・実技等の取り組み状況 就学支援等への取り組み支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況 課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動)
(6)学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い 活用できる経済的支援措置の内容等
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価の結果 評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページにて公表

URL:<http://www.anabuki-net.ne.jp/fukuyama/info/index.php>

授業科目等の概要

(教育・社会専門課程こども保育学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			日本国憲法	日本国憲法の全体的な枠組みを体系的に理解する。	1・後	30	2	○			○		○		
○			情報処理入門Ⅰ	コンピューターの発達過程や仕組み、操作方法などを学ぶ。	1・後	30	2	○			○		○		
○			英会話Ⅰ	日常英会話と保育現場で役立つ実践的な英語を学ぶ。	1・前	30	2		○		○			○	
○			健康科学	スポーツ活動との関連の中で健康や体力に関する知識や関心を高める。	1・前	15	1	○			○			○	
○			生涯スポーツ	スポーツ技能の向上を中核目標としながら、集団的活動を重視しながら、実践的な思考サイクルを習得する。	1・前	21	1			○		○		○	
○			保育原理	保育の思想・制度の発達の概念を通して、保育に関する基礎的な知識を培い、保育の本質を探究する。	2・前	30	2	○			○			○	
○			教育原理	教育の本質と意義を理解し、基礎的な概念と知識を習得する。	1・前	30	2	○			○			○	
○			児童家庭福祉	児童福祉の基礎、援助技術・方法の基本的知識の理解を深める。	2・前	30	2	○			○			○	○
○			社会福祉	保育士に必要な社会福祉の基本的な事項、援助技術の基礎を修得する。	1・前	30	2	○			○			○	
○			相談援助	援助技術の方法と技術を修得する。	2・前	15	1		○		○			○	
○			社会的養護	社会的養護の基本的なあり方を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	○

○		教職概論	保育士の仕事について探求し、現在保育士に求められているものを学ぶ。	1・後	30	2	○			○		○					
○		発達心理学	乳幼児の発達と心理学について学ぶ。	2・前	30	2	○			○							○
○		教育心理学	子どもの発達を理解し、保育における発達援助について学ぶ。	1・後	30	2		○		○							○
○		子どもの保健Ⅰ	小児の心身の発達、疾病、障害などの医学的知識を深め、その予防や取り扱いの方法を習得する。	1・後 2・前	60	4	○			○							○
○		子どもの保健Ⅱ	保育者として必要な緊急時の応急処置法などを学ぶ。(救急講習受講)	3・前	15	1		○		○							○
○		子どもの食と栄養	栄養の基礎知識を踏まえ、小児期の発達段階に応じた栄養法、食育の重要性を学ぶ。調理実習も行う。	2・前	30	2		○		○							○
○		家庭支援論	子育て家庭への援助の必要性とその方法を理解する。	2・前	30	2	○			○							○
○		教育課程総論	幼稚園教育課程について学び、教育計画編成の基礎的な力を養う。	1・前	30	2	○			○							○
○		保育内容総論	保育所保育指針に基づく保育の基本および保育内容の理解を学ぶ。	1・前	15	1		○		○							○
○		健康(指導法)	教育要領・保育指針の領域『健康』について学ぶ。	1・前	15	1		○		○							○
○		人間関係(指導法)	教育要領・保育指針の領域『人間関係』について学ぶ。	1・前	15	1		○		○							○
○		環境(指導法)	教育要領・保育指針の領域『環境』について学ぶ。	1・前	15	1		○		○							○
○		言葉(指導法)	教育要領・保育指針の領域『言葉』について学ぶ。	1・前	15	1		○		○							○
○		音楽表現(指導法)	幼児の音楽遊びについて実践的表現活動を通じて学ぶ。	1・前後	15	1		○		○							○

○		造形表現 (指導法)	幼児の造形的発達 ¹ の理解と、幼児の表現遊びについて実践的造形活動を通じて学ぶ。	1・前	15	1		○	○	○								
○		劇あそび (指導法)	幼児の劇遊びについて実践的活動を通じて学ぶ。	1・後	15	1		○	○	○								
○		乳児保育	3歳未満児の成長発達と保育内容、保育の実践の方法を学習する。	3・前	30	2		○	○	○								
○		障害児保育	障害児の発達と保育について学ぶ。	2・前	30	2		○	○					○	○			
○		社会的養護内容	社会的養護の知識と理解を深め、実践的内容を学ぶ。	2・前	15	1		○	△	○				○	○			
○		保育相談支援	保育相談支援の意義と原則、実際を学び、内容や方法を理解する。	2・後	15	1		○	○									○
○		音楽 (器楽・声楽)	幼児教育に必要な音楽技術を習得する。	1 ～ 3・前	167	4		○	○					○	○			
○		図画工作	幼児教育者に必要とされる造形に関する基礎知識と表現技術を学ぶ。	2・後	15	1		○	○					○				
○		幼児体育	幼児の運動発達 ² の理解と、幼児体育に必要な保育技術と実践的知識を習得する。	2・前	15	1		○						○	○			
○		言語表現	幼児の言語の表現活動に関する知識や技術を習得する。	2・後	15	1		○	○					○				
○		造形表現Ⅱ	幼児教育者に必要とされる造形に関する基礎知識と表現技術を学ぶ。	2・後	15	1		○	○					○				
○		児童文化	児童文化の歴史について学び、児童文化の実践的活動をする。	3・前	30	2	○							○				
○		言葉Ⅱ	言葉の発達を促す指導法を実践的に学ぶと共に教材作成を行う。	3・前	15	1		○	○					○				
○		図画工作Ⅱ	幼児教育者に必要とされる造形に関する基礎知識と技術を実践的に学ぶ。	3・前	15	1		○	○					○				

○		教育方法論	保育者という職務のあり方の本質的な理解を深める。実践的教育方法について学ぶ。	1・後	30	2	○			○		○		
○		教育相談	カウンセリングの基礎知識を学び、教育現場での基本的援助の方法を学ぶ。	2・後	30	2	○			○				○
○		保育・教職実践演習	実習の振り返りおよび課題の追及を行う。また、さらに研究を深めたいテーマについて研究発表を行う。	3・後	30	2		○		○		○		
○		文学	子どもの情操教育に重要な絵本や紙芝居について学びます。	1・前後	30	2	○			○		○		
○		音楽表現Ⅱ	幼児の音楽表現遊びについて実践的身体表現活動を通じて学ぶ。	3・前	15	1		○		○		○		
○		音楽（理論）	音楽理論の基礎を学ぶ。	1・前後	34	2		○		○		○		
○		保育自由研究	子どもの情操教育に重要な絵本や紙芝居について学びます。	1・前後	75	5		○		○		○		
○		和太鼓	音幼児教育に活かせる和太鼓の技術を習得する。	1・2・3後	69	2		○		○				○
○		ピアノ実習	幼児教育に必要な音楽技術の習得や資質の向上を目指し学習する。	3・前後	30	2		○		○		○		○
○		声楽	発声法の基本と読譜力をつけ、音程、リズム、歌唱による音楽表現を習得する。	2・前	15	1		○		○		○		
○		保育演習Ⅰ	幼児教育の実践的技術を習得する。	3・前後	100	6		○		○		○		○
○		保育演習Ⅱ	幼児教育の実践的技術を習得する。	3・後	60	4		○		○		○		
○		こども環境管理士	幼児を取り巻く自然環境などについて学び、検定の合格を目指す。	3・後	30	2	○			○		○		
○		幼児体育指導者検定	幼児対象の体育指導者検定の合格を目指す。	3・前	15	1		○		△		○		○

○		ボランティア実習 (保・幼)		2・前後	32	2				○		○						○
○		教育実習事前事後 指導	実習を円滑に行うために必要な知識・意欲 を習得する。	1・後	8	1				○		○						
○		保育実習事前事後 指導Ⅰ(保育所)	実習を行うために必要な実践的技術を学 ぶ。また、実習の事前準備を行う。	2・前	8	1				○		○						
○		保育実習事前事後 指導Ⅰ(施設)	実習を行うために必要な学習をする。ま た、実習の事前準備を行う。	2・後	8	1				○		○						
	○	保育実習事前事後 指導Ⅱ	実習を円滑に行うために必要な知識を習得 すると共に、実習の準備を行う。	3・前	8	1				○		○						
	○	保育実習事前事後 指導Ⅲ	実習を円滑に行うために必要な知識を習得 すると共に、実習の準備を行う。	3・前	*8	*1				○		○						
○		教育実習①	幼稚園にて実習を行い、幼児教育に関わる 理論と実践を体験的に統合していく。	2・前	80	2				○		○						
○		教育実習②	幼稚園にて、現場ならではの教育技術を学 び、幼稚園教諭としての意欲を高める。	3・前	80	2				○		○						
○		保育実習Ⅰ(保育 所)	保育園にて実習を行い、保育に関わる理論 と実践を体験的に統合していく。	2・後	80	2				○		○						
○		保育実習Ⅰ(施設)	児童福祉施設にて実習を行い、養護を実践 する。	3・前	80	2				○		○						
	○	保育実習Ⅱ	保育園にて、現場ならではの保育技術を学 び、保育士としての意欲を高める。	3・前	80	2				○		○						
	○	保育実習Ⅲ	児童福祉施設にて、現場ならではの養護技 術を学び、保育士としての意欲を高める。	3・前	*80	*2				○		○						
○		PC実習(表計算)	Excelの基礎知識、技能の習得、及びMCAS Excel2013の合格。	2・後	60	4				○		○						
○		PC実習(文書作成)	Wordの基礎知識、技能の習得、及びMCAS Word2013の合格。	3・後	60	4				○		○						

